【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成24年4月12日(2012.4.12)

【公開番号】特開2010-194133(P2010-194133A)
【公開日】平成22年9月9日(2010.9.9)
【年通号数】公開・登録公報2010-036
【出願番号】特願2009-43257(P2009-43257)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｂ　5/00　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/00　１０２Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成24年2月24日(2012.2.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被検者に装着される装着体と、該装着体に配され、該被検者の生体動態を測定する測定部とを備える生体動態測定装置であって、
前記装着体は、
前記被検者に装着した状態で、前記被検者の測定部位に接触する凸状の接触面と、
前記被検者の測定部位を含む装着部位全体の外周面を把持するよう、前記接触面の側面から延びる２つの把持曲面を有しており、かつ、該２つの把持曲面が径方向に弾性変形することで、該装着部位の径に応じて拡径可能である巻き付け部と、を備え、
前記巻き付け部が有する２つの把持曲面は、それぞれ、前記接触面の長手方向に沿って曲率が大きくなるように構成されており、
前記測定部は、
前記巻き付け部に配され、外部からの送信された電磁波を受信するアンテナ部と、
前記接触面に配され、前記アンテナ部が電磁波を受信することで発生した誘導起電力により起動する制御部により制御される感温部を含むＩＣタグ部と
を備えることを特徴とする生体動態測定装置。
【請求項２】
前記アンテナ部は、前記把持曲面において、曲率の大きい領域に配されていることを特徴とする請求項１に記載の生体動態測定装置。
【請求項３】
前記２つの把持曲面には、それぞれ、雄型面ファスナと雌型面ファスナが取り付けられていることを特徴とする請求項１または２に記載の生体動態測定装置。
【請求項４】
前記感温部は、更に、
Ｐ型とＮ型の２種類の半導体が結合され、該２種類の半導体の結合部に電流を流した場合のバンドギャップ電圧を検出する半導体温度センサが、２個以上並列に接続された検出部と、
前記検出部により検出されるバンドギャップ電圧を校正するための校正データを記憶する記憶部と、を備え、
前記制御部の起動に伴って、前記検出部により検出されたバンドギャップ電圧を、前記

校正データとともに、前記アンテナ部を介して送信するよう構成されていることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１項に記載の生体動態測定装置。

【請求項５】

前記ＩＣタグ部は、更に、前記被検者の体表面の湿度を測定する湿度検出部と、前記被検者の体動を検出する体動検出部を備えることを特徴とする請求項４に記載の生体動態測定装置。

【請求項６】

前記検出部は、前記半導体温度センサを６～１０個備え、前記各半導体温度センサの結合部におけるバンドギャップ電圧の平均値を検出することを特徴とする請求項４または５に記載の生体動態測定装置。

【請求項７】

前記制御部は、前記アンテナ部における誘導起電力の発生に伴って温度上昇があった場合に、前記制御部の起動に伴う制御を停止することを特徴とする請求項４乃至６のいずれか１項に記載の生体動態測定装置。